

## 予 算 要 求 資 料

令和5年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：林業費 目：県産材流通対策費

### 事業名 木の香る快適な公共施設等整備事業費補助金

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

林政部 県産材流通課 木造建築推進室 消費対策係

電話番号：058-272-8487

E-mail：c11545@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 64,850 千円 (前年度予算額：69,850 千円)

#### <財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	69,850	0	0	0	0	0	69,850	0	0
要求額	64,850	0	0	0	0	0	64,850	0	0
決定額	64,850	0	0	0	0	0	64,850	0	0

## 2 要 求 内 容

### (1) 要求の趣旨(現状と課題)

平成24年度から「清流の国ぎふ森林・環境税」を財源とし、木材利用の促進を図るため、令和3年度までに70施設の公共施設等の木造化・内装木質化に対し支援を行ってきた。

令和4年度から第三期の森林・環境税基金事業5ケ年計画が始まり、引き続き環境保全や木材利用に対する意識や理解を深め、県産材利用をより一層推進するため、引き続き市町村等が整備する公共施設の木造化・内装木質化について支援を行う。

### (2) 事業内容

#### ■事業区分

事業費補助 ・木造化  
・内装木質化

#### ■補助対象施設

教育関連施設(幼稚園、小・中学校、高等学校、図書館、体育館等)

福祉関連施設(児童福祉施設、老人福祉施設、障がい者福祉施設等)

#### ■事業主体

市町村、学校法人、社会福祉法人、医療法人、NPO法人等

### (3) 県負担・補助率の考え方

- ① : 17,000円/m<sup>2</sup> (上限 : 30,000千円) (定額)  
② : 10,000円/m<sup>2</sup> (上限 : 30,000千円) (定額)

### (4) 類似事業の有無

有 【類似事業】 県産材需要拡大等整備事業

当事業は市町村等における公共施設の木造化や内装木質化を推進するため、従来事業に比べ採択基準を緩和し、木造化・内装木質化を促す。

### 3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
補助金	64,850	
合計	64,850	

### 決定額の考え方

### 4 参考事項

#### (1) 各種計画での位置づけ

第4期岐阜県森林づくり基本計画 (R4～R8)

- ・非住宅施設の木造化及び内装木質化施設数
- 第3期「清流の国ぎふ 森林・環境税」 (R4～R8)
- ・教育福祉関連施設の木造化・内装木質化数 (上記の内数)

#### (2) 国・他県の状況

国 (林野庁) 林業・木材産業成長産業化促進対策交付金において、木造公共施設整備に対する支援を行っている。

#### (3) 後年度の財政負担

令和4年度～令和8年度

## 県 単 独 補 助 金 事 業 評 価 調 書

新規要求事業

継続要求事業

(事業内容)

補助事業名	木の香る快適な公共施設等整備事業費補助金
補助事業者(団体)	市町村、社会福祉法人、学校法人、NPO法人 等 (理由)
補助事業の概要	(目的) 県産材利用を推進し、環境保全に対する意識の醸成を図る。 (内容) 公共施設のうち、県民への普及啓発効果の高い教育・福祉・医療関連施設の木造化・内装木質化を推進する。
補助率・補助単価等	定率 (内容) ・木造化 17,000円/m <sup>2</sup> (定額 上限30,000千円) ・内装木質化10,000円/m <sup>2</sup> (定額 上限30,000千円) (理由)
補助効果	市町村の他、社会福祉法人やNPO法人等においても、木造化・内装木質化の動きが進んでいる。
終期の設定	終期8年度 (理由) 第4期森林づくり基本計画の終期に合わせ事業継続

(事業目標)

<p>・終期までに何をどのような状態にしたいのか 令和4年度から5か年で公共施設等の木造化・内装木質化を30施設実施する</p>
--

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前	R3年度	R4年度	R5年度	終期目標	達成率
	(R2)	実績	目標	目標	(R8)	
①教育福祉関連施設の木造化・内装木質化数			6	6	6(30)	

補助金交付実績 (単位：千円)	R元年度	R2年度	R3年度
	84,179	31,948	46,376

(これまでの取組内容と成果)

令和2年度	学校法人2施設、特定非営利活動法人3施設に対して支援を行い、4施設の木造化、1施設の内装木質化を行った施設が完成した。
	指標① 目標：－ 実績：－ 達成率：－ %
令和3年度	市町村1施設、学校法人1施設、社会福祉法人2施設に対して支援を行い、2施設の木造化、2施設の内装木質化を行った施設が完成した。
	指標① 目標：－ 実績：－ 達成率：－ %
令和4年度	令和6年度当初予算にて追加
	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %

(事業の評価)

<p>・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</p>	
(評価) 3	木材の利用は持続可能な森林づくりに貢献しかつ環境保全につながっており、脱炭素社会の実現に貢献するものである。
<p>・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり(単年度目標100%達成かつ他に特筆できる要素あり) 2：期待どおりの成果あり(単年度目標100%達成) 1：期待どおりの成果が得られていない(単年度目標50~100%) 0：ほとんど成果が得られていない(単年度目標50%未満)</p>	
(評価) 2	こども園、学校等の啓発効果が高い施設の木造化・内装木質化が行われた。施設利用者の施設に対する評価についても、「とても良い」40%、「良い」60%と評価を得ている。
<p>・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</p>	
(評価) 2	公共施設のうち、幼稚園、保育園、学校等の啓発効果が高い施設の木造化・内装木質化に対し支援することで効率化を図っている。

(今後の課題)

<p>・事業が直面する課題や改善が必要な事項 施設の木造化、木質化はウッドショックの影響もあり、益々木造は高いというイメージが強くなっていることから、木造施設の事例集等を活用してPRすることで施設の木造化・木質化を促進していく。</p>
--

(次年度の方向性)

<p>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか SDGs、カーボンニュートラル2050の達成のため木材利用に関連したPRをインターネット等を活用して木づかい運動を展開していく。</p>
--